

# 一般社団法人 情報システム学会について

# 情報システム学会の理念

情報システムは、社会、組織体または個人の活動を支える適切な情報を、収集し、加工し、伝達するための、人間活動を含む社会的な仕組みである。社会、組織体及び個人の対処すべき課題を解決するためには、情報システムの活用が不可欠であり、より安心して利用できる情報システムが望まれている。情報社会が健全な発展を遂げるためには、情報システムを担う有為な人材を育成し、利用者にとって真に有用で信頼できる情報システムを構築し、活用していくことが必要である。

以上の認識のもとに、われわれは、情報システムの概念的枠組み、学問としての方法論の体系、あるいは社会的な影響などを広範囲にわたって考察することを通して情報システム学を確立し、その成果を社会に発信していく。そのために、様々な分野の研究者、実務家、経営者、利用者、一般市民及び行政といった人々に参加を呼びかけ、さらには相互間の連携を図っていく。

われわれは、このような取組みが真に人間中心の情報社会を実現することに貢献するものと信ずる。

## **Mission Statement of the Information Systems Society of Japan**

Information systems (IS) are social mechanisms, including human activities, that collect, process, and transmit relevant information to support activities of societies, organizations or individuals. As it is essential for them to deal with IS to solve their problems, they desire to use more secure IS. It is necessary to foster valuable human resources bearing IS, to build IS that are truly reliable and useful for users, so that our information society may accomplish wholesome development.

In recognition of the above-mentioned, we establish the information systems discipline through consideration ranging widely over the conceptual framework, the body of methodology, and social influences, etc. of IS and disseminate our research results to societies. We invite people such as researchers from various fields, specialists, managers, users, citizens, and administrative bodies to join our society, and, furthermore, promote closer cooperation among them.

We believe our contribution will help to realize the truly human-oriented information society because of our efforts.

## 情報システム学会設立趣意書

インターネットに代表される新しい情報技術が、ビジネスや市民生活に革新的な変化を及ぼしています。現在、企業にとっては情報システムをいかに効果的に構築・活用するかがその存亡を左右する要因となっています。一方、公共的な情報システムのトラブルが一般市民に多大な損害を与え、社会に対する脅威になっていることも考えなければなりません。情報システムにおけるこうした光と影を的確に理解することが望まれています。そして、情報への意識・感性を高めていくことが大切です。

こうした世の中であって、情報システムは、“情報の利用を望んでいる人々にとって、手に入れやすく、役に立つ形で、社会または組織体の活動を支える適切な情報を、集め、加工し、伝達するシステムであり、それは単にコンピュータを中心にした技術的なシステムを指すものではありません。むしろ、人間活動を含む社会的なシステムである”と認識することが非常に大切です。情報技術の高度化に伴い、その利用は社会の隅々まで及んでいます。したがって、情報社会が健全な発展を遂げるためには、人間活動を活性化するという視点で、利用者にとって、真に有用で安全な情報システムを構築していくことが、最も必要なことだと思われまます。

情報システムの構築・活用にあたっては、単に情報技術の効率的な利用を狙うだけでなく、人間の情報行動の理解に立脚し、横断的・総合的な価値基準のもとに、その概念的枠組みあるいは社会的影響について考察する努力が必要です。そして、情報システムの企画、開発、運用、評価という実践的な活動を通して知識や技術を体系化していくことも重要になります。

このような視点から情報システムに関心を持つ人々の相互研鑽の場として、**情報システム学会**を設立し、情報社会の健全な発展に寄与することを願うものであります。

2005年4月23日

発起人一同

代表 浦 昭二

## 学会創立総会 記念講演より

倫理 (ethics) とは、「魂 (精神) の世話」というものです。肉体の世話をするためには、熱、脈拍、血圧、食欲といったものが一般的な条件になるでしょう。それに対し、魂 (精神) の世話の一般的な条件としては、「正義」「賢慮」「勇氣」「節制」の四つの徳 (四大枢要徳) を挙げるすることができます。



「正義」とは、物質が公平に分配されていること、  
「賢慮」とは、中庸を守ること、  
「勇氣」とは、自ら是と信じたことをためらわずに発言すること、  
「節制」とは、節度を尊重することです。

伝統的倫理は、人間を取り巻く環境が「自然」であったときに出来上がったものです。現在の私たちは、自然と同時に科学技術の連関の中で生活していますので、伝統的倫理に加えて新しい倫理が必要なのです。

情報社会では、情報は記号化され (つまり、実物でない)、人間生活で最も重要なものの一つである「崇高」(偉大なるものへのあこがれ・賛美) が忘れられています。好奇心と賛美とは違います。学問は、偉大なるものへのあこがれや賛美から出発するのです。

情報社会にあって、何が進歩し、何が衰えてきたかを認識し、新しい目的をもつという姿勢が大事です。

人々の本当の幸せとは「他者のために捧げる」ことです。他者のためになることを為す、と云うだけでは駄目で、具体的に徳目として人に訴えることが重要なのです。倫理とは準拠するだけでなく、お互いが創出していくものです。

倫理についても、情報システムに携わる人たちが、情報社会における徳目を創出していくことが重要なのです。

今道友信氏「情報と倫理—21世紀の課題—」  
(情報システム学会創立総会記念講演) より抜粋

## ごあいさつ

2015年7月  
一般社団法人情報システム学会  
会長 伊藤 重隆

本年度、当学会は10周年を迎えました。10周年に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

10年は早くもあり大変に長い時間であったとも思います。振り返りますと、2005年に故浦昭二慶應義塾大学名誉教授の呼びかけで、本学会が110人の発起人を持って4月23日に設立されました。設立主旨は、「情報システムが重要性を増しているにも関わらず社会では情報技術の適用と考えているが、

情報システムは、「人間活動を含む社会システムであることを認識し、情報社会の健全な発展に学会として寄与する」としています。この考え方は現在でも揺るがないと考えております。

この考え方を具体的に2009年5月30日に、「学会の理念」としてまとめ公表しました。

その内容は、「情報システムは、社会、組織体または個人の活動を支える適切な情報を、収集し、加工し、伝達するための、人間活動を含む社会的な仕組みである。学会は情報システムの概念的枠組み、学問としての方法論の体系、あるいは社会的な影響などを広範囲にわたって考察することを通して情報システム学を確立し、その成果を社会に発信していく。そのために、様々な分野の方々と共に研究を行う」としています。

情報システム学については、2014年2月末に概要をまとめた『新情報システム学序説』を発刊しました。その中で情報とは何か、情報システム構築方法の考え方並びに現代社会での課題と大きく分けて述べております。

現在の社会状況について述べたいと思います。正に情報社会と言えるのでは無いかと思います。電車、バスに乗りますと、自動改札から始まり乗客の多くの方がスマートフォンを持ち、スマートフォンをじっと覗き込んでいる姿を目にします。スマートフォンを利用する目的はゲーム、フェイスブック、SNS、メール、インターネット検索、ニュース参照等ではないかと思います。従来のマス・メデ

ィアであるテレビを見ない若い人が多くなっているとの社会調査も見聞します。社会環境の一部としてインターネットが普通となっていると思います。一方で、インターネットを介したサイバー犯罪も年々増加傾向で、情報搾取方法も巧みとなり情報漏洩も多くなっている留意すべきことも多くなっています。

情報技術が浸透している世界に生活する人々は、インターネット上にある情報はすべて真実であると誤解し、また、無断で流用したことに気がつかないで簡単に他人の情報をコピーする事も生じています。以上は社会現象の一例ですが、情報社会で生活するために必要な情報についての知識、現代社会を理解する場合には情報技術ばかりではなく情報システムとして理解すべきであると考えております。情報システムについての根本原理と応用について研究し情報システム学体系を確立しその成果を社会に還元することが社会に取り重要であると考えております。

学問という言葉については、よく耳にしますが、その意味が問われずに使われていることが多々あります。私は、学問は「問いを学ぶ事」が大切であると思います。また、学問をする際には、ギリシャ時代の哲学者 ソクラテスの言葉、「知らないことを知らない」を大切にしたいと思います。理解できないことについては、理解できるまで問を繰り返し追究することが大切であると思います。今日から新たな気持ちで、未来の社会をより良くするために皆様と共に歩んで行きたいと思っております。

是非共、皆様のご協力、ご支援の程をお願いします。どうぞよろしくお願いいたします。

以上

## 情報システム学会の活動

以下の「無料」「有料」は、会員に対するものを表示しております。

1. 全国大会・研究発表大会 年に一度 11 月頃開催（ワークショップ無料、大会・懇親会は有料）  
大会会長挨拶、研究発表、特別講演、パネル討論等  
情報交換会
2. 学会誌発行 年に 2 号程度オンライン発刊（論文投稿・査読・掲載・閲覧はすべて無料）  
論文、記事掲載——（1）論文（2）論説（3）記事（4）創作  
バックナンバー公開（最新号は会員のみ閲覧可能）  
ISSN 取得済み（ISSN 1884-2135）
3. メールマガジン発行 毎月 25 日頃発刊（無料）  
毎月の記事の他連載記事掲載  
バックナンバー公開（一定期間経過後）
4. シンポジウム開催 年に一度 5 月頃開催（無料、懇親会のみ有料）  
特別講演（2 件程度）、パネルディスカッション、情報交換会
5. 懇話会開催 年に数度開催（無料）  
会員相互の自由な意見交換，情報交換の場
6. 私の主張の会 年に数度開催（無料）  
会員が日頃考えている事項について話し、参加者で討議  
を行うことで会員間の交流を活発にし、同時に新しい見  
方、知見を見出そうとする場
7. 研究会主催の研究会（原則無料）  
研究会毎に開催  
2015 年度の研究会  
常設研究会  
基礎情報学研究会  
HIS（Human Oriented Information Systems）研究会  
一般研究会  
教育情報システムデザイン研究会  
超上流工程における要求分析への科学的アプローチ

8. 社会への提言・貢献

随時発信・参加等による貢献

最近の提言

「マイナンバー制度導入についての提言」(2013/07/12)

「考える力を育成する大学へ」へのパブリックコメント  
(2012/07/31)

「東京電力福島第一原子力発電所の事故に関する提言」  
(2011年6月)

他学会開催の大会等への後援・協賛

フォーラム等への講師の派遣

9. 賀詞交歓会開催 年に一度 1 月頃開催

賛助会員代表者による賀詞交歓会

10. 社員総会 年に一度 5 月頃開催

議案の審議

11. 理事会 6 カ月に二度開催

理事および監事他が出席 事務局長(書記)

12. 評議員会開催 年に二度程度 7 月と 2 月 頃開催



## 情報システム学会への質問

### その1：論文の投稿についてお聞きしたい

お答え；

会員となった学生、実務家の皆さんには論文を投稿してもらいたいです。

特に博士取得を目指す学生や実務者、研究者はある期間〔半年とか10ヶ月以内〕で論文の採録を達成したいでしょう。このような場合、先ず費用についてですが、当情報システム学会では投稿・掲載費用は無料です。さらに、学会論文の採録をクリアするにはどうすべきかについて研究会を設置して指導を心がけております。

この研究会に参加して、論文の書き方の“てにをは”を学び、とりあえず書いてみた最初の論文を学会のベテラン研究者が懇切丁寧に読了後、何処をどのように直しさらに強調し追加の記述をしたら良い論文として完成できるかをガイドいたします。

さらに、学会論文の査読者の立場からのコメントもいたします。

また、このようなプロセスに入る前に、論文誌に論文を投稿する研究者は、査読のゆるい研究発表大会での論文の発表をもこなしておくことが勧められます。これは研究者仲間にご存知のためです。自分の研究テーマなどを知らしめて、名前と一致するように注目を集めておくわけです。この状況下で、いざ書き上げた論文を正式に学会誌に投稿した場合、先ず適切な査読者がより早く決まります。さらに適宜適切な査読が短期間に行われ回答書を得ることになります。勿論、査読者には投稿著者の名前は伏せられておりますが、それまでの投稿者の研究発表などに接した経験とか参照資料の挙げ方などから、査読者は投稿者が誰かなと想定をしましょう。投稿者の研究姿勢や人柄などとも合わせて、投稿者の論文の意図や狙いを容易に理解できるというものです。結果、1回か2回の条件付採録で良い結果を得られるはずです。

情報システム学会では、今まで、一般企業での情報システム部門に所属する実務家の論文投稿が少ないのでこれを促進するように心がけております。実務家が社会に起きている様々な現実課題に対処しているその経験知見の交流を推進する学会として一層の努力をしていく所存です。

## その2：社会への提言をしますか。

お答え；

いたしております。

情報化の深化に伴い、社会のいたるところに情報システムの不備や欠陥などから便宜を受けるべき情報システムの利用者が不利益を被ることが多くなっております。システムに組み込まれた人間が、常に安全かつ安心して生活できるようにシステムは開発運用されなければなりません。結果として、適宜適切な情報が利用者に配布されるべきであると考えております。この視点から、今後も鋭い観察を継続し、率直な社会提言を行ってまいります。

これまでに、学会にはいろいろなご意見が寄せられております。

ぜひ沢山の皆様からの率直なご質問を頂きたいと思っております。

## 会員の構成

- 正会員 情報システムに関心のある個人
- 学生会員 情報システムに関心のある本務が学生である個人
- 賛助会員 情報システムに関心のある法人、または団体
- 特別賛助会員 10 口以上の賛助会員
- 名誉会員 本会の発展に尽くし、学術上業績のあった者で、理事会で承認された個人

入会は、個人会員については、学会 WEB ページ (<http://www.issj.net/>) の“学会入会ページ”からお申し込みください。賛助会員申し込みは、学会事務局までメールでご連絡ください。

学会事務局メールアドレス：issj-office■issj.net

■は@ に置き換えてください。

## 学会の運営組織

終身名誉会長	北城 恪太郎	(日本アイ・ビー・エム(株) 相談役) (経済同友会終身幹事)
名誉会員	竹並 輝之	(前 新潟国際情報大学)
名誉会長	杉野 隆	(国土舘大学)
理事会		
会長	伊藤 重隆	(前 みずほ情報総研(株))
副会長	柿澤 晋一郎	(三和コムテック(株))
	宮川 裕之	(青山学院大学)
常務理事	伊藤 重光	(元 日本IBMサービス (株))
	甲斐荘 正晃	((株)KAINOSHO)
	川野 喜一	((株)富士通ディフェンスシステムエンジニアリング)
理事	池辺 正典	(文教大学)
	石井 信明	(文教大学)
	江島 夏実	((株)コンピュータ教育工学研究所)
	金田 重郎	(同志社大学)
	佐々木 桐子	(新潟国際情報大学)
	椎葉 怜子	((株)ルシーダ)
	篠沢 佳久	(慶應義塾大学)
	渋谷 照夫	(前 NEC ソフト(株))
	永田 奈央美	(静岡産業大学)
	森本 祥一	(専修大学)
監事	田沼 浩	(駒澤大学)
	松平 和也	((株)システムフロンティア)
評議員会議長	原 潔	(前 日本ユニシス (株))
委員会	編集委員会	(委員長：石井 信明)
	メルマガ編集委員会	(委員長：川野 喜一)
	ウェブ編集委員会	(委員長：伊藤 重光)
	新情報システム学体系調査研究委員会	(委員長：伊藤 重隆)
	研究普及委員会	(委員長：宮川 裕之)
	企画委員会	(委員長：甲斐荘 正晃)
	広報委員会	(委員長：柿澤 晋一郎)
	基盤整備委員会	(委員長：金田 重郎)
	総務委員会	(委員長：伊藤 重光)
事務局	事務局長	魚田 勝臣 (専修大学)

## お問い合わせ先

一般社団法人情報システム学会 事務局

e メール：issj-office■issj.net

(メールアドレスの■は@ に置き換えてください)

URL：http://www.issj.net/

オフィス

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-10-9 九段 VIGAS 5階

電話：03-4570-3280(事務局員不在時は、対応できません)

Fax：03-4570-3282

---

一般社団法人情報システム学会について

2015年9月30日

発行者 一般社団法人情報システム学会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-10-9 九段 VIGAS5F

お問い合わせ先 情報システム学会事務局

e メール：issj-office■issj.net

(メールアドレスの■は@ に置き換えてください)

URL：http://www.issj.net/

---